

遙かなまち、盛り上げ

映画ロケ回想や催し 福高祭会場一体に

鳥取県中部の福を高める「福高祭」が19日、倉吉市明治町の打吹回廊を主会場に開かれ、近くの白壁土蔵群周辺がロケ地になった映画『遙かな町へ』の錦織良成監督が映画に込める思いを語り、原作漫画に登場するまち並みを巡るウォーキ



映画『遙かな町へ』にエキストラで出演した市民らと一緒に倉吉ロケを振り返る錦織監督(左)＝19日、倉吉市明治町の打吹回廊

ング、アートイベントなど多彩な催しで「遙かなまち倉吉」を盛り上げた。トークショーで錦織監督は「地元をめぐる人がかっこいい時代になった。『もう都会に憧れるのはやめましょう』ということ。倉吉の良さにスポットを当てる

時代に、この映画を撮らせてもらった」と強調。「倉吉の皆さんは地元愛にあふれていた」と語り、エキストラで出演した市民らと一緒にロケを回想した。

アートイベントでは、ペン画家えんどつととしさん(米子市)が、鉛筆の芯の粉を使って手でモノクロの濃淡によって動物を表現した作品を披露。湯梨浜町の高校生アーティストSAWAさんのワークショップでは、来場者がスプーンの先からしたたり落ちるペンキで絵を書くスプーンアートを体験した。

湯梨浜学園の生徒が書道パフォーマンスで「福高最高 Ready GO この愛する遙かな町へ」と書き上げ、祭りのフィナーレでは会場が一体となって「地域の福が高く上がるように」と風船を天高く飛ばした。

(小谷和之)

映画『遙かな町へ』日本海新聞 (2025.10.21_26面掲載)